

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4079100162
法人名	有限会社 北村
事業所名	グループホーム なかま
所在地 (電話番号)	福岡県みやま市高田町岩津785 (電話) 0944-22-6568
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成12年12月4日

【情報提供票より】(平成20年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造瓦葺 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成20年11月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 90 歳	最低 84 歳	最高 102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ヨコクラ病院 江の浦病院 くさかベクリニック 中村歯科医院 二宮歯科医院
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広々とした田園風景のなか、学校や神社が点在するのどかな地帯に位置し、明るい外観のグループホームである。管理者は看護師として高齢者福祉に、意欲的に取り組み、介護の必要な高齢者へ「地域社会と交流し、自分らしく、心より笑える笑顔の生活を」理念に掲げ、利用者、職員、共に寄り添い、利用者一人ひとりを大切に人としての誇りを傷つけないよう暖かく見守り支援している。地域の文化祭や敬老会に参加して交流を深め、家庭的な環境を大切に介護支援がなされている。今後更に地域に根ざしたホームとして期待される場所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の改善課題を、全職員で検討し、改善点については、速やかに取り組みサービスの向上にいかされている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員は外部評価を受けることで、日常の介護の見直しの重要性を十分に理解している。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 二ヶ月毎に開催し、利用者、家族、民生委員、市の職員の参加を得て、ホームでの暮らしぶりや、介護について、サービスの内容、評価への取り組みについて等、現状を報告している。参加者からは、福祉バスの利用、地元消防団との協力についての助言を頂いている。高齢者への理解を深めてもらう有意義な会議になっている。意見や助言は速やかに日々の介護に活かされている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 家族会はないが、家族の面会時には、声かけをして、要望や意見や苦情などが、言い易い雰囲気作りに配慮している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内の敬老会、文化祭など地域の行事に参加したり、セラピーや絵手紙教室の指導を受けている。また、近隣の方々より、手作りの野菜などを届けて頂くなど、地元の方々と一緒に交流している。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境の中で、その人らしい生活を基に「地域社会と交流し、自分らしさを継続し、心より笑える笑顔の生活」を事業所独自の理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関正面に掲示しており、職員採用時に説明し、毎日の朝礼時には全員で唱和し、毎月の職員会議で理念を確認共有して、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の敬老会、文化祭など地域の行事に参加、セラピーや絵手紙教室の指導を受けたり、近隣の方々より手作りの野菜を届けて頂き地元の人々と交流が出来る。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は外部評価を受けることで、日常の介護の見直しの重要性を十分に理解している。前回の外部評価の結果と共に自己評価を全職員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、市職員、利用者、家族の方々の参加を得て2ヶ月に1回開催している。利用者の暮らしぶりや評価の取り組み等、現状報告をしている。また、参加者からは福祉バスの利用や地元消防団の協力についての助言等がありサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高田町のグループホーム協議会で、二ヶ月に一回、市職員、民生委員、他のグループホームと会合を持ち、意見交換を行い行政からの助言等をもらって、情報を共有し市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の理解については、過去に利用された方があり、管理者は認識しているが、地域福祉権利擁護については認識されていない。	○	研修会や勉強会への積極的な参加で、全職員が周知されることがのぞまれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書と一緒に、ホーム便り「なかま新聞」を家族に郵送している。家族面会時には、利用者の健康や日常の暮らしぶりを詳しく説明し、活動に変化が生じた場合は、必要に応じて連絡をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には、声かけをして要望や意見、苦情などが言い易い状況作りに努めている。又、外部相談員を受け入れ、利用者や家族の意見・苦情を外部へも言い易い体制を整えている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当者制にはしないで、利用者には管理者と職員全員で関わり、常に情報を共有している。退職者が出て利用者へのダメージを防ぐ配慮を工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用には性別や年齢での制限はしていない。本人の高齢者福祉に対する思いと優しさを重視している。希望する休暇の取得や研修会参加など職員の自己実現や社会参加に対し配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、日々の介護において利用者の尊厳を第一に指導している。接遇、言葉遣い、態度についてのマニュアルを作っている。勉強会や研修会への参加を促し人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市、町、グループホーム協議会、広域連合主催の研修会に参加し、報告書を回覧して全職員への周知を図っている。職員の外部研修については、受講料、交通費、食費など事業所が負担し勤務扱いにして参加しやすい体制にしている。勤務を調整し、希望する休暇が得られるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム部会で、他施設との交流を深め、介護方法などの情報を得たり、意見交換を行いサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が、納得出来るよう、利用開始まえにホームで家族と宿泊を共にできるようにしている。入居後の数日間は家族に毎日朝から来て頂き場の雰囲気に徐々に馴染めるよう、家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	三味線の習い事、せんたく物たたみ、料理の味付けや盛り付け、畑仕事など利用者の得意分野で、力が発揮出来るような、場面作りや声かけを行い、本人から学んだり、感謝したり、支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを取り入れ、利用者、家族の意向を確認している。日々利用者として接している中で、何気なく交わした会話や表情等からも本人の希望や意向を汲み取り毎日笑顔で過ごせるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者は、利用者、家族の希望や現場職員の気づき・意見を取り入れた介護計画を作成している。作成された介護計画は、会議などで職員に伝えられ目標、介護内容など話し合われている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに、利用者、家族の意向を聞き取り見直されている。状態に変化が見られた場合は、随時見直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近くの友達の家遊びに行かれる方には、送って行き、頃合いを見て迎えに行く。毎日のように自宅へ帰られる方には同行している。看護職員による病院受診やかかりつけ医との連携が出来ていて、利用者が安心して暮らせる体制となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりのかかりつけ医がいる。基本的には、受診は家族に連れて行ってもらっているが、家族が遠方の方や受診に同行できない場合はホームより受診の支援行っている。受診結果は、随時家族に報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に家族に説明している。今までにホームでの看取りはないが管理者の他に職員で看護師が配置されており病院との連携もよく、終末期のケアに対する体制は出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室の名札は、許可があった方のみ掲示している。排泄介助においても、本人のプライドを損ねないように遠くからそっと見守り、必要時は速やかに介助行っている。個人情報記録等は職員のみが出入りする部屋で管理されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった日課はなく早い方は5時位から起きてこられる。夜間不眠等の方は、ゆっくり起こすようにしているが、生活のリズムが崩れないよう7時頃までには起きていただくようにしている。散歩や新聞を読まれたり、パズル・計算問題をしたりと個々の好きなことを支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で取れた野菜が食卓に上り話しも弾む。調査当日は、利用者、職員が、ホットプレートで囲みお好み焼きを作られていた。利用者は、手際よくお好み焼きを返されたり、食後の洗い物も、3人が洗う、すすぐ、拭くとスピーディにこなされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴できるように支援している。入浴拒否などある場合は、無理強いないで次の日に入っていたいでいる。利用者の自宅で取れたゆずを浮かべるなど、季節感を取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	在宅時から習っていた三味線や民謡教室を続けられたり、地元の敬老会に2名の方が参加され、前日には美容室に行き参加を楽しみに準備されている。また、洗濯物干し、たたみ、食事の準備、後片付け、野菜作りなども職員と一緒に楽しく行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームから一望できる散歩コースがあり、毎日のように散歩に出かけ、散歩の途中でお堂にお参りしたり、お友達の家へ寄りかたりして外出を楽しまれている。また、季節ごとの花見に出かけたり、ショッピングセンターへの買い物にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のドアに鈴を付け出入りがわかるようにしている。防犯の為、夜間は鍵をかけるようにしている。庭へは自由に出入りが出来るようになっている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っている。新入職員が入ったので、ホーム内での避難訓練を行い、全利用者を避難誘導訓練に参加させている。避難経路や避難場所等の確認が出来ている。住民との連携では、消防団との消火避難訓練を1月に予定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、10時のお茶には、粉ミルク入りのコーヒー牛乳を準備したり、煮干をミキサーにかけ丸ごと摂取できるようにしたりと、日頃からカルシウム不足にならないよう工夫されている。調理師が2名いて、献立を作っている。摂取量や水分チェックを行い、きざみ食・ミキサー食の対応も出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族からいただいたふくろうのぬいぐるみ、押し花、絵などが、玄関や居間に飾られている。利用者が集う居間からは、ウッドデッキ越しに広い庭が見渡せ、利用者が育てている野菜の成長を眺めることが出来る。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅に居たときに使っていたベッドや寝具を準備してもらっている。新しいものをと言われる家族には、枕と布団だけは使用中のものを持ってきて頂き、ホームの生活になれた頃に新しい物と買い換えて頂くようになっている。家族の写真や小物が飾られ居心地の良い居室となっている。</p>		